

# 登校班に付き添い続けて二十五年間

## 森田シゲさん（八十五歳）

平成二年から二十五年にわたって、自宅近くの矢板小学校の登校班に付き添って、児童の安全を見守ってきた方にお話を伺いました。

●付き添いを始められたきっかけは？

子どもが巻き込まれる事故や事件を聞く度に心を痛めていました。私が退職後だったことや、孫が小学校へ通っていたこともあり、登校班に付き添ってみようと思いいちましました。小学校までは二十分くらいだったでしょうか。二十五年間続けましたが、この四月に転倒してしまい、年齢的なことも考えて辞めることを決心しました。



卒業生と父兄一同からのなが〜い巻手紙

●気を遣ったところは？

季節や行事の話、世の中の事件の話などをしながら、子どもたちと歩くのは楽しかったです。それでも、子どもたちが車の事故に巻き込まれたり、変な人が襲ってきたりした時はどう対処するのか、また、危険な目に合わないよう常に気配りしながら歩きました。特に薄井本屋さんのT字路付近は車の往来が激しく、一番気を遣ったところで



児童からのプレゼント

守りながら、登校班以外の子どもたちとも朝のあいさつを交わし、元気な顔を見る、それがとても励みになったと思います。

私の家族も協力的で、冬には「これはとてもあたたかいコートだから」とコートや手袋をくれたり、常に励ましの言葉をかけてくれました。私自身、毎日一緒に歩き、気を張ることで、ここまで元気でこれられたと思っています。

●二十五年間続けてこられたのは？

付き添っている道々でいろんな方が「ご苦労さま」と笑顔で声を掛けてくれたり、矢板中央高の生徒たちも元氣よく、あいさつしてくれます。また、十字路の角に立って見

●振り返って今思うことは？

やめた時、私自身は「二十五年間無事に終わってよかった」と思っただけでしたが、子どもたちや親御さんから感謝をされて、色紙や手紙を何通も頂きました。本当に皆さんの役に立っていたのだなと改めて思いました。それが私の「二十五年間の勲章」だと思っています。(R・K)

# 元気のヒケタツは

現在、栃木県ソフトテニス連盟顧問、県シニアソフト連盟副会長、そして、矢板市体育協会会長として、元気に活躍している渡辺清二さんにお話を伺いました。

●ソフトテニスはいつ頃から始められましたか？

泉中一年の二学期からテニス部に入りました。(一学期中は野球部でした。)

●当時のテニス部活動はどうでしたか？

部員が少なかったため、ほかの部活と兼ねる部員が多く、さらに専門的に指導する先生も少なかったもので、自己流テニスでした。一所懸命練習をしましたが、大会に出場してはなかなか良い結果が得られませんでした。それでも、三年生になっ



## チャレンジ精神を忘れない 渡辺清二さん（71歳）

て初めて市内大会で優勝することができました。

●元気の原動力は？

テニス教室のない火・水・金曜日の午後は必ず四キロくらい歩いて、その後もストレッチを十五、三十分ほどしています。今までにテニスだけがをしたことがないので、このストレッチは役立っているようです。

●テニス以外に好きなことは？

小盆栽を育てています。昭和四十二年頃から始めて、特に雑木や松の盆栽を育てています。主に午前中は盆栽の手入れに時間を費やしていますね。

●最近の大会の成績は？

今年、五月二十三日に開催された第六十六回関東ソフトテニス選手権七十五歳以上の部で、栃木県人で初めて優勝しました。



●一番の思い出に残っている試合は？

全国大会、東日本大会で優勝が常連の方に勝って三位になった大会です。

●今後の抱負は？

自分にできることは、何でも一生懸命にやってみよう。また、スポーツを通して、健康を維持することですね。スポーツは仲間も増えますし、勝ち負けよりも体を動かすことを楽しむことが大事です。

### 記者の一言

渡辺さんは試合に選手として出場し、活躍する傍ら、中学生テニス教室や、ママさんテニス教室などを作り、長年後輩の指導にあたっています。これらの活躍により、

平成十年には文部大臣表彰、平成二十一年には日本体育協会よりスポーツ指導者功労賞を受賞されました。今後の活躍も期待しています。(R・H)